

通信教育部メディアスクーリング
経済学（2017年度撮影）

経済学

（資本と利子から経済を考える）

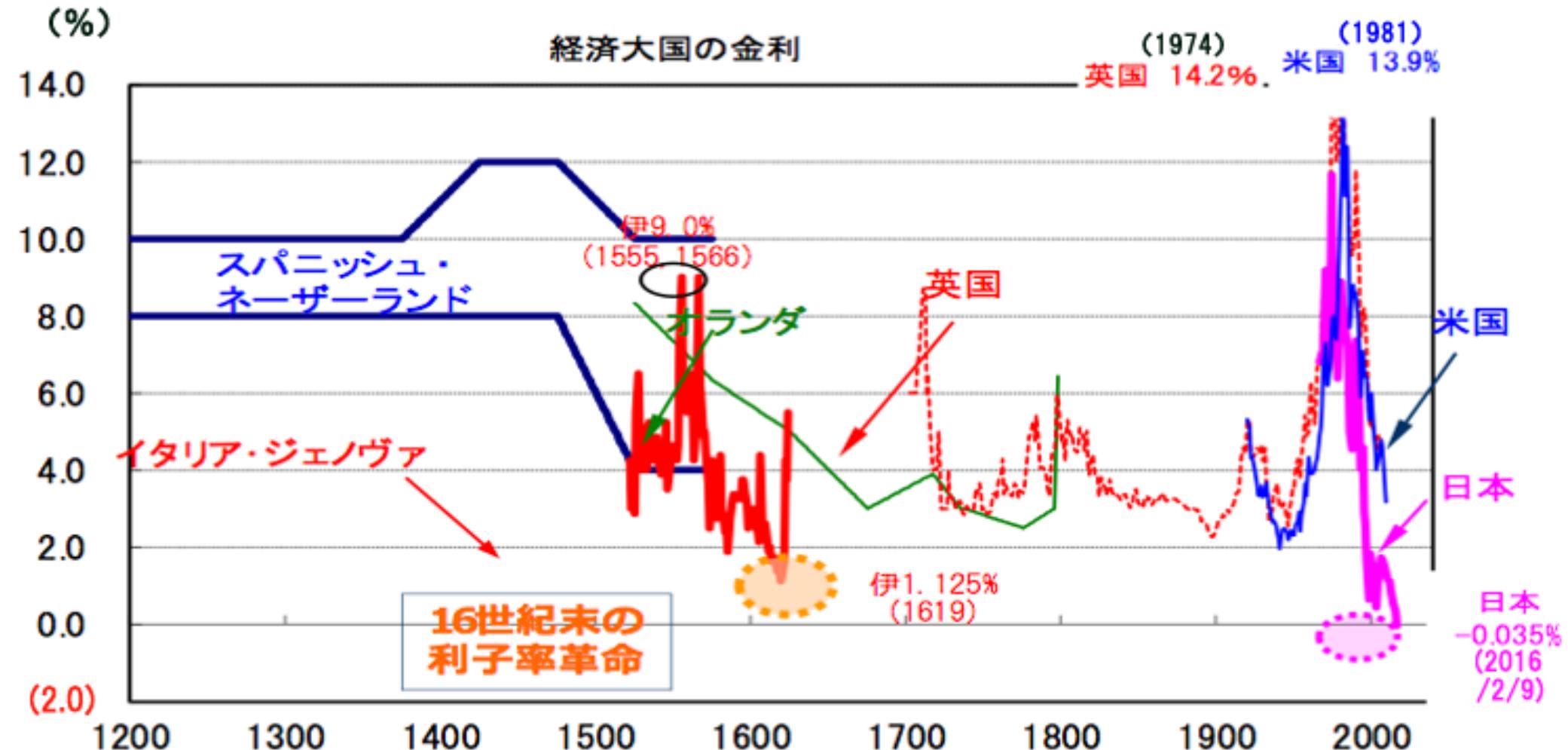
第7回

法政大学 法学部
水野和夫

第7回目のテーマ

- ▶ 新自由主義とは、経済的エリートの権力回復 (D・ハーヴェイ)
- ▶ 「グローバリゼーションには明確な定義はない」 VS. 「ヒト・モノ・カネの国境を超える自由な移動」

過去5000年で前例のない日本とドイツの「ゼロ金利」



(出所) SIDNEY HOMER “A History of Interest Rates”、
日銀「経済統計月報」

21世紀の利子率革命

新自由主義とは・・・経済的エリートの権力を回復するための政治的プロジェクト

『新自由主義』（デヴィッド・ハーヴェイ、原著2005、作品社、2007）

経済的エリートの権力回復のための政治的プロジェクト（p.32）

新自由主義の誕生=1947年（前掲書、p.32-33）

新自由主義は、国際資本主義を再編するという理論的企画を実現するためのユートピア的プロジェクトとして解釈することもできるし、あるいは、**資本蓄積のための条件を再構築し経済的エリートの権力を回復するための政治的プロジェクト**として解釈することもできる。以下、私は二番目の目標が現実面では優位を占めてきたことを論じていく。

1947年、主にアカデミズムのエコノミスト、歴史家、哲学者で構成された小規模で熱狂的唱道者の一団が、オーストリアの著名な政治哲学者**フリードリッヒ・ハイエク**の周囲に集まり、モンペルラン協会（この協会の名前は、彼らが最初に会合したスイスの保養地からとっている）を創設した。

最初のテスト・ケース・・・メキシコ危機

自由市場原理
の信奉
(p.33-34)

このグループのメンバーは、個人的自由の理念に原則的に忠実であることをもって、ヨーロッパの伝統的な意味における「自由主義」を自認した。この新自由主義的な肩書きは、彼らが、アダム・スミスやデイビッド・リカード、そしていうまでもなくカール・マルクスの古典派理論に代わって19世紀後半に台頭した新古典派（これはアルフレッド・マーシャル（略）の業績に基づいている）の自由市場原理を信奉していることをはっきり示唆していた。

メキシコ危機
(p.43)

1982年-84年にメキシコを債務不履行に陥れたボルカー・ショックをきっかけに、最初の重大なテスト・ケースが到来了。政権初年度にはIMFへの支援打ち切りを真剣に検討していたレーガン政権は、逆にアメリカ財務省とIMFが力をあわせて、これらの債務の返済繰り延べを認める見返りに自由主義的改革を実施させることに活路を見出した。

あらゆるもののが金融化

ケインズ派を
一掃

「あらゆるも
のが金融化」
(p.47)

1982年にIMFからケインズ主義派のあらゆる影響が、
(略) 「一掃」されたことで、この手法が一般化し
た。それ以来IMFと世界銀行は、「自由主義原理主
義」と新自由主義の正統理論を普及し実施する中心機
要するに、新自由主義化が意味したのはあらゆるもの
の金融化だった。 (略) 1990年代にそれは、「ウォー
ルストリートにとってよいこと、それがすべてだ」と
いうスローガンに変貌した。

力の行使、権力、権威主義

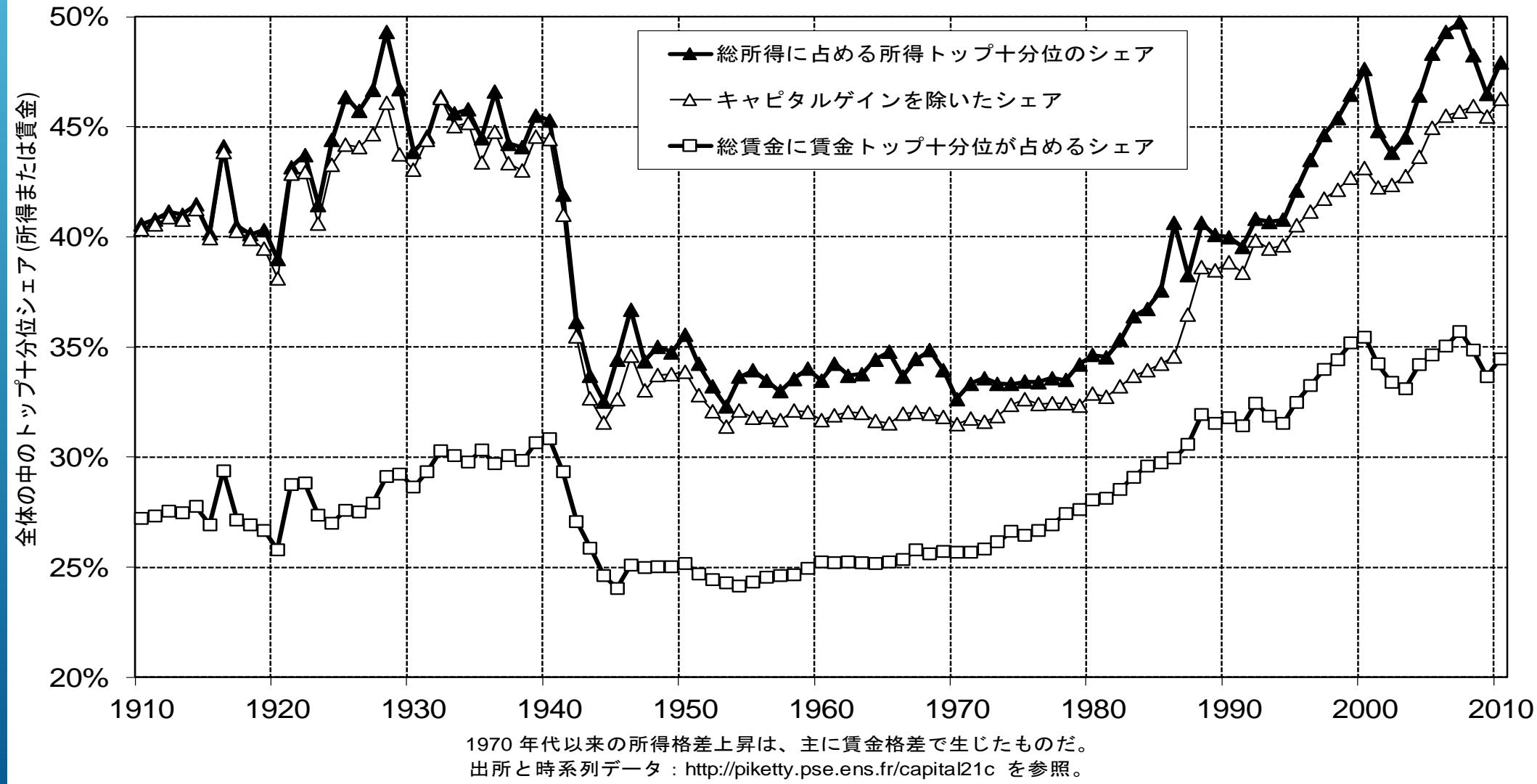
ポランニーの
見解
(p.53)

自由の概念は単なる「自由企業の擁護に墮している」、これは「所得・余暇・安全を高める必要がない人にとっては自由の充足を意味するが、財産所有者の権力から避難場所を手に入れるために民主的な権利を利用せんとむなしい試みをするかもしれない人にとっては、ほんのわずかな自由しか意味しない」。だが、もし「権力と強制のない社会などありえないし、力が役割をもたない社会もありえない」ならば（そして、いつの世もそうだったのだが）、この自由主義的なユートピアニズムのビジョンを擁護する唯一の方法は、力の行使、権力、権威主義である。

『21世紀の資本』(ピケティ、みすず書房、2014)

P.311

図8.7 米国の高所得と高賃金 1910-2010年



「グローバリゼーションの推進力はテクノロジー」

グローバリゼーションの「成人の日」(谷口智彦、2003年7月2日、日経ビジネス Express)

「諸市場のグローバリゼーション」(テッド・レビット・ハーバード大学・ビジネススクール教授、1983年6月1日、「ハーバード・ビジネスレビュー」)

時代を画した「グローバル化宣言」

「一つの強力な力が、世界をある向きに駆り立てている。収斂し、標準化する向きにである。その力とはテクノロジーだ。それによって通信が、運輸が、人の移動がプロレタリアート化された。…今や世界中の誰もが、新たなテクノロジーの恩恵によって同じものを聞き、見、経験する。そして見聞、体験したモノを、欲するようになる」(拙訳)。

こう語ったとき、レビット教授は「CNN効果」が世界を覆う状況を予見していた。

通信手段とメディアが「プロレタリアート化」し、すなわち安く均質に手に入れるようになって、地球上の事件がどこでも共時体験できるようになる。

多国籍企業VS.グローバル企業

多国籍企業
とグローバ
ル企業

その結果こと物質的欲求に関する限り世界では皆が同じ夢を見、モノを求めるようになり、その欲求に応じられる真にグローバルな企業こそが伸びるのだと言っていた。

多国籍企業とは、国や地域ごとに違う製品を、異なる売り方で売る会社、いわば経営の脳内が国境で仕切られている会社である。

グローバル企業は違う。単一化する世界市場に圧倒的なスケールメリットを存分に生かし、安くしかもいい品物を作る企業のことだ。

日本企業はグローバリゼーションの申し子

日本企業は
グローバリ
ゼーション
の申し子

世界史を画したこの論文によれば、世界経営史に燐然輝く
日本の貢献とは、「品質が良くて、安い」製品を誰より先んじ
て作ったことだ。

品質を上げる以上、価格も上げねばならないとするそれまで
以前の通念を、教授によれば日本が真っ先に破壊した。

安さと高品質は、日本人の手によって初めて同伴可能な概
念になった。日本企業はその意味で、**グローバリゼーション
の申し子**であり、旗手であった。

グローバリゼーション、5つの定義①

「グローバリゼーション」、5つの有力な定義『グローバリゼーション』
(スティーガー、原著2005、岩波書店、p.12-13)

①アンソニー・ギデンス、ロンドン大学政治系学院(LSE)長

グローバリゼーションとは、何マイルも離れた場所で起きた出来事によってローカルな出来事が形成され、逆に、ローカルな出来事が遠く離れた場所の出来事を形成するというかたちで、遠く隔たった地方同士を結びつけていく、世界規模の社会関係の強化として定着することができる。

②フレドリック・ジェイムソン、デューク大学文学部教授

グローバリゼーション概念には、世界市場の地平と世界のコミュニケーションとが限りなく拡大したという感覚が反映されており、近代のより初期の段階に比べると、その両者がはるかに実体的で直接的な関わりをもつようになつたと思われる。

グローバリゼーション、5つの定義②

③デヴィッド・ヘルド、LSE政治学教授

グローバリゼーションとは、**社会関係と社会的取引の空間的編成における変容**—その広がり、強さ、速度、影響力によって評価される—を生み出す一つの（ないしは、一連の）過程であり、それが大陸間ないし地域間に行動のフローとネットワーク、相互作用、そしてパワーの行使を生み出していると考えられる。

④ローランド・ロバートソン、ピツバーグ大学社会学教授

概念としてのグローバリゼーションが意味するのは、世界の圧縮と、**世界を一体としてとらえる意識の深まり**である。

グローバリゼーション、5つの定義 (+1) ③

⑤ジェイムズ・ミッテルマン、アメリカン大学国際関係学教授

(参考)ステイガー[2005]の定義、p17)

グローバリゼーションは社会関係の時間的および空間的な側面を圧縮する。

グローバリゼーションとは、世界規模の社会的な相互依存と交流とを創出し、増殖し、拡大し、強化すると同時に、ローカルな出来事と遠隔地の出来事との連関が深まっているという人々の認識の高まりを促進する、一連の多次元的な社会的過程を意味する。